



おちほ

第81号 平成27年3月25日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田 正 則
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <http://ochiho.noor.jp/>

スプリングコンサート!!



落穂寮で、春を迎える行事「スプリングコンサート」。今回お招きしましたのは、「和太鼓集団 鼓鐵」。

「和太鼓集団 鼓鐵」は、平成元年に近江一ノ宮、建部大社の船幸祭のふれ太鼓を原点到建部太鼓保存会として結成され、和太鼓「迫力・カッコイイ等のイメージを持たれがちだが、鼓鐵はそれ以上に楽しさや温かさ等を伝えたいと願い、ジャンルや概念にとらわれない、事なく常に新しい物を追及し続ける創作和太鼓グループです。

利用者さんは、最初和太鼓の大きな音と、体を感じる振動に少しびっくりされましたが、鼓鐵のメンバー皆さんの笑顔とダイナミックな演奏に引き込まれていました。

演奏後には、和太鼓を叩く機会を頂き、メンバーの皆さんと利用者さん、職員と一緒に和太鼓を叩き、最後に「やー!」の声とポーズに、盛大な拍手が送られました。

「和太鼓集団 鼓鐵」の勝仁さん、さくらさん、春菜さん、凱斗さん、秀敏さん、素敵な演奏ありがとうございました。

地域包括ケアと

みょうがむら
茗荷村I

山下陽一

地域包括ケア

厚労省のホームページによると、日本は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しているそうです。高齢者介護の需要が二〇二五年をピークに増加していくという予想が大きな問題となっています。この予想の根拠としているのは、「国勢調査報告」と「日本の将来推計人口」を基礎資料とするものです。民間のシンクタンク（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）が国の助成を受けて平成二五年三月に報告書「地域包括ケアシステムの構築における今後の討論のための論点」を出しました。この報告書は将来の高齢者人口の増加と認知症高齢者の介護要員の確保のために、それぞれの地域特性に応じて対応策を組み上げることに ついて、「五つの構成要素」として「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」を、さらに「四つ視点」、すなわち「自助」「互助」「共助」「公助」を有機的に関連し合うシステムを作り上げる必要性を論じています。

この地域包括ケアシステムは高齢者福祉に限定したのではなく、生活している人びとのこれからの「生

き方の根幹」に関わる問題を含んでいると思っっています。

茗荷村

田村一二先生による「茗荷村見聞記」（昭和四六年十月 北大路書房）が出版されました。茗荷村を理想郷としたこの著作は、山田典吾監督・長門裕之主演の同名の東映映画（一九七九年）の原作になったものです。

釈迦の弟子、周梨槃特はお経が覚えられなかったのですが、釈迦は彼やがて彼は掃除を介して仏の教えを得て悟りに達したといわれ、没後その墓の周囲に茗荷が生え、それを食べる物忘れをする、という逸話が生まれました。

さて、この「茗荷村」は先ほど挙げた「地域包括ケア」構想にある「五つの構成要素」や「四つの視点」をすべて包括した生活が日々営まれているように見え、その「構想」の課題を考えたいと思います。

「茗荷村」では若い人も年寄りも、弱いひとと職人もそれぞれの役割を担って生活しています。生産も消費もその場で完結しており、豊かではないが、潤いのある生活を送っています。

田村先生は言葉作りに独特の感性を示され、真意はなかなか捉え難いのですが、多くのことを発明されました。その中でも「賢愚（けんぐ）和楽（わらく）」はこの村の特徴をよく示しています。先ほどの槃特の

悟りを得るに賢愚の別はないように、知的障がいのある人もそうでない人も賢愚の差はあるけれども別はない。若い人も年老いた人も、その役割を十分に果して生活するという考え方が茗荷村の約束事となっているのです。

(つづく)
(二〇一五・三・一六)

自覚がつけられる

寮長 太田 正 則

今年2月に新しく入所利用の方を迎え入れました。入所施設の役割は、その方が落ち着いて安定した生活が送れるように、生育歴や性格・行動特性・障がい特性などから得た情報を元に、人的・物理的環境を調整し、適切な支援方法を確定することにあります。その先に、より小さな社会単位の生活環境で暮らすことが目的として置かれています。しかし、ある一定の安定した生活を営むことができるようになってもなかなか移行することが難しい現状にあります。そこで、このような取り組みが在宅生活をしながら、そして保護者の負担軽減を図るための必要なサービスを受けながら行うことができれば、親御さんが辛い思いをされることがなくなるのではないかと思います。ただ、家族だけの力で在宅

生活を続けていくには限界があります。それは障がい者福祉だけでなく、子育てや高齢者の介護でも同じことが言えます。入所施設にしても家庭にしても二十四時間三百六十五日のことですから休むというわけにはいきません。その暮らしを支えるためには、そこに関わるひとりひとりの負担を減らす必要があり、そのためには少しでも多くの方の関わりが必要となります。

さて、湖南市では、平成二十七年から第二次湖南市障がい者計画が策定され、湖南市障がい者計画（第四期）の取り組みが始まります。通称「みんなできとりくむつばさプラン」といいます。そのプランの基本方針の第一が「あなたが支え、みんなが支え合う、あたたかいまち」となっています。策定に携った委員のみなさんのとても熱い思いに触れていると、産まれてから高齢に至るまでの全てのステージに関係することにつながるみんなの計画であると感じました。

「多様な価値観」に振り回される現在、多くの事柄が生産的社會經濟を中心に進められているように思います。そのため、立ち止まって深く考える事をせず、見過ごしてきた多くのものがこぼれてしまった後の価値のないものも「多様な価値観」の中に混ざってしまったのではないのでしょうか。私自身、今一度立ち止まって見過ごしたものが振返り、大事なことはしっかりと伝えたいかなければと思っっています。

真也さん若さあふれる19才!!

真也さん若さあふれる19才!!

去年、三雲養護学校を卒業し落穂の日中活動を経験して、2月20日付で入所しました。

午前は、若さを生かしてカンガルー班にてがんばって歩いていきます。午後からは、ECO班でペットボトルをつぶすお仕事に取り組んでいます。おいしいごはんを楽しみに落穂の生活に慣れて充実した日々を過ごせるようにがんばります。

よろしくお願ひします。



▲真也さんとあべ st

はじめまして。今年の2月から落穂寮の女子棟で働かせて頂いています。下保 安代です。この施設に来るまでは、生活保護施設の救護施設で働いていました。救護施設は、年齢20代から80代、入所利用者も知的、精神障害の方やDV、ホームレス、軽犯罪者その他さまざまな理由で生活されている本当に最後の砦と言われる施設でした。福祉の仕事を始めると、資格取得後、初めて就いた施設でした。寝たきりの方の介護や生活支援、就労支援と多種にわたる支援の中で、仕事として実感で

きる事も沢山ありましたが、戸惑う事も同じだけありました。そんな時に友達から落穂寮の話を知り紹介してもらいました。昨年の夏頃から見学、体験雇用させていただき、「ここで働きたい。」と決めました。多業種を経験し、医療に携わる仕事をしたいときに周囲のすすめもあり福祉の仕事をするきっかけができました。前職での経験や今までの経験を生かして、利用者の方々が笑顔で元気に生活して頂ける支援ができるよう頑張りたいと思います。



▲綾子さんと下保 st

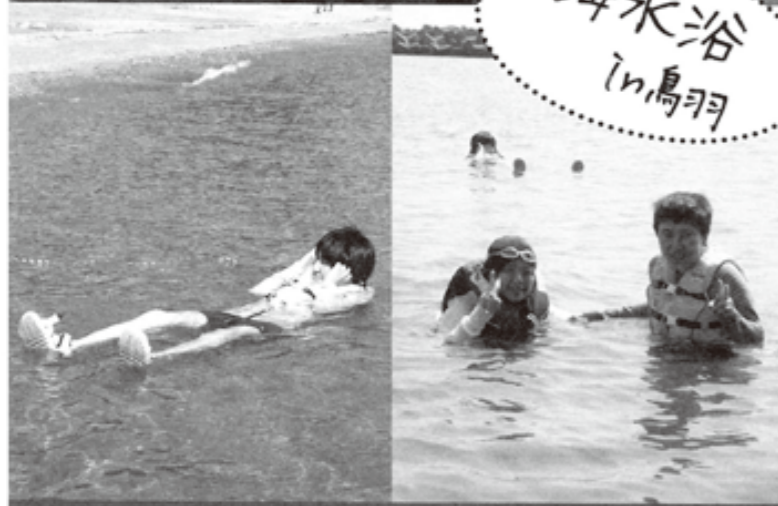
職員 新人紹介



海水浴
in 鳥羽



東山動物園
＆
アトムマン
ミュージアム
in 名屋



ロングドライブ
in 和歌山



オート
ミッセ
in 大阪



御在所
ロープウェイ
(日帰り)

イムト
平成元年



松田聖子
コンサート
in 大阪
(日帰り)



(日帰り)
トロッコ列車



ハワイ温泉
in 鳥取



城崎温泉

伊吹山
ドライブ



(日帰り)
鈴鹿サキット



スタート

リフレッシュ旅行2014

癒しの旅
in 知多半島



ライオンバス
in 和歌山

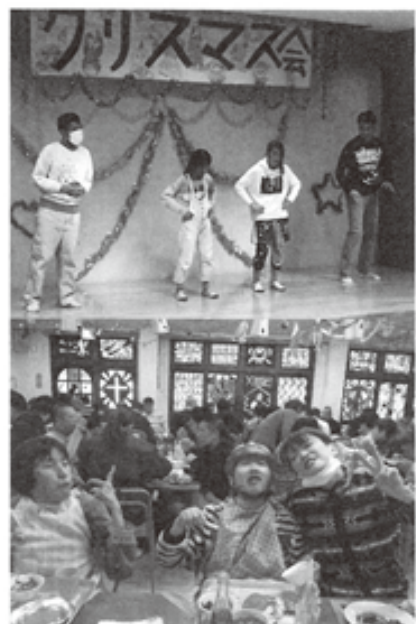


おわり

(日帰り)
木下大サーカス



リフレッシュ
旅行2014



去る12月23日は、利用者さんと職員が楽しみに待っていた「クリスマス会」でした。

今年の「クリスマス会」は、豪華なランチでスタート。

ウェイター&ウェイトレスに扮した職員によるテーブルサービスで、おいしい食事を楽しんで楽しく頂き、みんなで「ごちそうさま」をした後は、多目的ホールに移動。

多目的ホールでは、劇団おにぎり村によるとても素敵な形劇、職員からの歌のプレゼント。利用者さんと一緒にダンスと、とても楽しい時間を過ごせました。

クリスマス会

その後、スタンドグラスで飾りつけられた食堂では、ケーキが用意され、キャンドルサービス。キャンドルの光に映し出される利用者さんの顔は、とても素敵でした。

ケーキを食べ終わると、待ちに待ったサンタさんが、今年も落穂寮に来られました。一人ひとりサンタさんに名前を呼ばれて、プレゼントを受け取ると、待ちきれない方はすぐに袋からプレゼントを取り出しておられました。サンタさんも利用者さんの笑顔を見て、また来年も落穂寮に来ることを約束してくださいました。

来年も素敵なプレゼントがもらえるといいな。



せつ分

「いやー今年の冬は、落穂はダメダメやね。」「せやなあ、年末は女子棟でインフルエンザやったしねえ。」

「で、年明けから、ひと月せんうちに、今度は男子棟でインフルエンザやろ、なんか呪われてんのかいな？」「あんなー、ワシ思い当たること、あるんやわ。」「なんなん？」「毎年なあ、節分やるやん？落穂で。でもなあ、去年、きちんと豆まいてへんねん。掃除するのがじゃまくさいって、豆の代わりに、丸めた新聞紙投げとってんよ。」「あかん、あかん、そんなんしとつたら鬼も逃げて行きよらへんで。そら、インフルエンザも流行するわ。」「そやろ、そこで、今年の節分はきちっと、豆をガ



鬼がやって来たぞー豆なげてー！



鬼は外〜！福は内〜！

ツーンとまいてやな、厄払いせなあかんのや。」「よし、ほな今年は気合い入れて、鬼に豆かましたるでえー！」

このような職員のやり取りがあったような、なかったような…とにかく今年は、しっかりと伝統に則った節分を2月3日に行うことになりました。お炊事に大豆を炒ってもらい、準備は万端。鬼役の職員が男子棟、女子棟を順番に回ります。利用者さんが「福は内、鬼は外！」の掛け声で、鬼に豆を次々と投げ、鬼も「まいった、まいった」と退散。しっかりと去年と今年の厄を祓うことができました。今年も一年健康で過ごせますように。

「これで今年の落穂はバッチリ、安心やでえー！」

ありがとうございます

このたび、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団から、平成26年度助成金の交付を受け、先の事業を完了致しました。

ここに事業完了のご報告をさせていただきますと共に、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆さまに感謝致します。

記

一、事業者

受診等送迎車輛の整備

一、整備車両

日産 キューブアンシャンテ

一、事業費総額 一八七万円

一、助成金額 九十九万円

一、完了年月日

平成27年3月12日
以上



▲▼ NEW キューブくん☆



およろならキューブさん

長きに渡り、利用者さんの通院や外出の為の「足」となってくれていたキューブさん。大切に乗り続けていても、いつしかシートなど年季を感じるほどの染みなどが目立つようになっていました。そんな染みや汚れも一つ一つが利用者さんにとっては楽しい思い出の足跡でした。

怪我をして入院することもありましたね。ぴかぴかに輝く程の新車として落穂寮に来たのがついに、いつの間にか10万キロを優に越えていましたね。助成が受けら



▲総走行距離 121,847 km

れる事がきまり、急なお別れとなってしまうました。

NEW FACE (車輛 Ver.)

今年度の6月より、トラックがダブルキャビンになりました！

これで缶の回収・運搬等と一緒に
に行ける利用者さんが増えます。



泉

今年度も無事に終わることが出来ました。落穂寮への変わらぬご支援、ご協力ありがとうございました。今年も多くの出会いと別れがありました。行く人あれば、来る人もあり、ですが、今年「来る人」が多かったように思います。新たに落穂寮に入所された方もおられますし、生活介護やショートステイで利用される方の顔ぶれも増えました。ご家族の事情で急遽利用される方もみえました。また、夏休み期間には、落穂寮のプールを開放して地域のお子さんに楽しんでいただくこともありました。一昔前に比べると落穂寮への人の出入りはとても増えました。昔は、落穂寮の事務所前まで上がってくる車も稀で、郵便配達のカブが登ってくるくらいでした。人の出入りが多くなることについては色々課題もあります。しかし、人の流れある所には、やはり活気が生まれます。来年度はさらに落穂寮がにぎやかで、活気のある場所となり、多くの人に訪れてもらえる場所になれたらと思います。

木言

冬から春へ

見えない所で準備は整っていく

枯れ木に見えても

いつの間にか小さな芽は

ゆっくりと成長する

気づく人

気づかない人

気にも留めない人

あなたは？